



福岡観世会定期能

令和元年(第二回)

能野のの

宮 みや
合掌留 多久島利之

狂言 清し

水 みず
野村 万禄

能車 くるま

僧 ぞう
今村 一夫



とき 12月7日(土) 午後1時始
ところ 大濠公園能楽堂
入場券 自由席 7,000円
発売所 大濠公園能楽堂事務所
092-715-2155

野

間

宮

多久島利之

賀茂 籠太鼓 松虫

木月 今村 菊本

松田美栄子 長宗 敦子 菊本 澄代 多久島法子

御厨 誠吾

野村 万祿

白坂 信行 飯田 清一

森田 徳和

後見

山口剛一郎 大槻 文蔵

地謡

井内 政徳 久田勤吉郎 関根 祥丸 今村 嘉太

久保誠一郎 今村 嘉伸 親世 清和 坂口 貴信

清水

狂言

野村 万祿

吉住 講

後見 吉良 博靖

老松 兼平 半部 卷絹 小鍛治

今村 嘉伸 鷹尾 維教 坂口 信男 山口剛一郎 久保誠一郎

地謡

井内 政徳 鷹尾 章弘 森本 哲郎 関根 祥丸

江口 女郎花

大槻 文蔵 親世 清和

地謡

久田勤吉郎 今村 嘉伸 今村 章弘 今村嘉太郎

△休憩十五分▽

車

間

僧

今村 一夫

御厨 誠吾

吉住 講

白坂 保行 飯富 章宏

田中 達 相原 一彦

後見

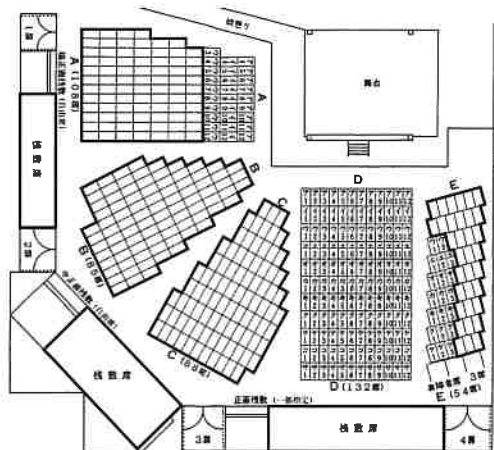
坂口 貴信 坂口 信男

地謡

小倉要二郎 武富 昭 山口剛一郎 久保誠一郎

鷹尾 章弘 鷹尾 維教 山本 章弘 森本 哲郎

附祝言



※番号が書かれていない席は自由席です ※棧敷席は自由席です

令和二年度予告

五月十六日(土)

十二月五日(土)

主催/福岡観世会

野宮・合掌留(がつしょうどめ)

言葉のひとつつとつが、シテである六条御息所の心情を丹念に紡ぎ出している、世阿弥の娘婿・金春禪竹による大作です。嵯峨野の野宮の旧跡を訪れた旅の僧の前にシテの里女が現れ、かつてここは前皇太子である夫を亡くした六条御息所が、伊勢に下る前に籠った場所だと言います。そして、その場所が九月七日、思いもかけず現れた光源氏との恋物語を語り出すのでした。多感で一途、嫉妬心も強い性格ながら、育ちと立場の高貴さゆえ理性的に振る舞っていた御息所の心に、その日の事は深くそして永く心に刻まれた気配が強く伝わってくる詞章です。やがて女は、自分がその御息所であると告げ、消えます。後シテは牛車に乗った御息所の霊として登場いたします。お客様には見えない牛車ではございますが、舞台をご覧になるにつれ、かつて賀茂の祭の車争いにて、光源氏の正妻葵上の供の者に大破させられた破れ車が目の当たりに浮かび上がることでございましょう。月下の姿は、御息所の情念を含みつつ更に凄まじく美しい月下の舞姿です。やがて「火宅の門を出でぬらん、火宅の門」と終る独特の最後の時間がやって参ります。(合掌留)の小書にて、小柴垣に囲まれた鳥居を前に拝む御息所の思いが密度高く描き出されます。

清水

茶の湯の会のために、主人は太郎冠者に清水で水を汲んでくるように命じます。太郎冠者は、これからお茶会の度に水汲みを言いつけられるのを嫌がり、清水に鬼が出たと嘘をつき、手ぶらで帰つてきます。その話を怪しんだ主人は、清水に見に行くことにしますが、そこには太郎冠者が鬼の面を付け、先まわりして待ち伏せる太郎冠者がおりました。

車僧

雪降り積もる嵯峨野が舞台です。椅子車の作り物が、脇正へ出されると、泰然とした雰囲気を持つ僧が登場いたします。牛が引かない車で諸国を巡るこの禅僧、車僧と呼ばれております。実は、不思議な能力を持ち、車を飛ばす事も出来ます。そこへ前シテの山伏が「いかに車僧」と呼びかけて現れ、禅問答を仕掛けてきます。しかし、軽くあしらわれてしまい、愛宕山の太郎坊に住む者だと告げ、黒雲に乗って引き揚げます。次に、太郎坊の手下(溝越天狗)が車僧の許へやってきます。笑わせて魔界へ引き入れようと車僧をくすぐるのですが、「蹴され、暮に向かつて太郎坊を呼び出します。後シテ太郎坊が、羽団扇を持ち背中には打杖を指した大天狗の正体を現し、「いざ車僧、行較べせん」と持ちかけますが、車僧は取り合わず動こうとしません。その姿に腹を立て、車を打つ太郎坊。果たして、大天狗対空翔ける車と僧の対決は如何に。飄々とした風と共に強い気合いで息をもつかせぬ面白さです。